

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 研究科博士課程前期課程開講科目の優秀で意欲ある学部生への開放と研究科への進学数の増加をめざす。また、高度専門職に就く博士課程前期課程修了者数の増加をめざす。	→高度専門職（民間企業調査管理部門、公務員専門職、税理士等）に就く博士前期課程修了者数。	B
2. 休暇中の集中講義を充実し、国内外から気鋭の外部講師招聘により研究科の講義・演習内容の向上を図る。	→学外研究者講師による集中講義開講数と履修者数。	B
3. 留学生向けの授業科目を充実させる。	→外国人留学生受講対象科目開講数。	C
4. 英語による授業科目を増やす。	→英語による授業科目開講数。	D
5. 大学院生による授業評価の実施とその結果を公表する。	→大学院学生による授業評価の実施回数と回答者数。	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

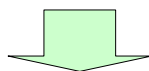
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.1.1	(方針) 入口と出口の改善 (現状説明) 1. 学部生に対する広報を低学年から行っており、早期卒業による入学生も見られる。 修士学位14名(含エコノミスト8名)うち10名が就職し、専門サービス業(税理士事務所)は4名。
☆ 小項目6.1.2	(現状説明) 2. 休暇中における集中講義は「経済学特殊問題Ⅶ」を7月に開講し、5名が履修。 3. 留学生には「経済学文献研究(英) A、B、C、D、Japanese and Asian Economics A、B」より2科目を選択必修する。ただし日本人も受講。 4. 英語のみによる授業科目は開講されていない。
☆ 小項目6.1.3	(現状説明) 教育目標、学位授与方針は学生向け履修心得に記載している。また社会に対してはHPに記載している。
☆ 小項目6.1.4	(現状説明) 授業評価を春学期・秋学期に実施し、その結果を参考とし教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性についての定期的な検証を執行部で行っている。授業評価は、在籍者44名のうち、春学期5名、秋学期2名から回答が得られた。

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
☆小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	



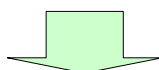
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
☆小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
☆小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
☆小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

- 「目標」1のうち、「高度専門職に就く博士課程前期課程修了者数」は6.4「教育成果」の項目が適切ではないでしょうか。また、「目標」2、4、5は6.3「教育方法」、「目標」3は6.2「教育内容」にかかわる項目です。同様の意味で「現状説明」も6.1.3を除き、6.2以降で扱うのが適切でしょう。
- 「目標」5について、大学院学生による授業評価実施は評価できますが、今後は回収率の向上やアンケート結果の活用、改善などPDCAサイクルにも留意することが期待されます。

## 【学内委員】

- 授業評価を行っている大学院生数がそれほど多くないのにAという評価はやや甘いのではないのでしょうか。
- 「現状説明」6.1.1の(方針)には本来“学位授与方針”を記述します。

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ なし

#### V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.1.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.1.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.1.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.1.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの授業科目開設数
6.1.0.S5	必修・選択ごとの開設授業科目数
6.1.0.S6	系列別卒業必要単位数

<個別的な指標>
